



「子どもも大人も楽しく一生懸命に」

運動会シーズン真っ只中の6月。町内各地で、それぞれ工夫を凝らした運動会が開催されました。20日には和琴小学校・おひさま保育園・屈斜路自治会第83回合同運動会が開催され、児童と地域の皆さんが一体となって、心地よい汗を流しました。

Public relations magazine

2015.7

No.731

てしかが

主な内容

- 地域おこし協力隊がやってきた！……②
- 「少年の主張」弟子屈大会……④
- 平成26年度弟子屈町財政の状況……⑥
- 姉妹都市交流事業……⑨
- 町民専用えこパスポート……⑩
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……⑪

むかしむか史 (297)

てしかが歴史写真館 171



峠に咲くハクサンチドリ

美幌峠の伝説

その昔、アイヌが川の魚のことから戦いとなった。ビホロ側は酋長(集落の長)が戦死。一人息子のパポニも深傷を負って山を越え、クッチャロ湖畔の酋長の家に逃げ延びた。

パポニは、コタレの酋長の一人娘・テシカから寝食を忘れた手厚い看護を受け、トウン(現在の「池の湯」)に浸かって傷を癒やすようになったが、若い二人はやがて恋に落ちた。

ところが、パポニの傷が回復したころ、パポニが新しい酋長としてビホロへ帰らなければならなくなった。二人は泣いて別れを惜しんだ。

二人は互いに相手のことが忘れられず、湖を見下ろす山の上で毎日のように逢瀬を重ねたが、二人は結ばれぬ身の上であった。

パポニは、メアカレベツコタレの酋長の妹と結婚しなければならなくなった。今日が最後の逢引きという日、そのことを打ち明けられたテシカの悲しみは大きく、山を駆け下りて、オヤコツ(和琴半島)の岬の断崖から湖水に身を投じてしまった。

パポニも生きる望みを失い、テシカの後を追ってその命を終えた。

二人がそれまで通い続けた嶺のうねりは、いつしか小道となり、道端にはテシカのようにかれんで美しい高原の花が咲き匂うようになった。

これが、今日の峠道の由来としてアイヌに伝わっている。

(弟子屈町史2号から)

てしかが郷土研究会(菊池)

てしかが 2015.7

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています